

# 安倍政権の生みの親

# 刑事告発された

# 神社本庁・田中恆清総長

取材・文 ● 三川和成

背任罪で刑事告発された  
神社本庁総長

安倍政権を支えてきた神社本庁の田中恆清総長（京都・石清水八幡宮宮司）が、六月二十二日に東京地検に背任罪で刑事告発された。

告発状を提出したのは田中総長に批判的な神職の集まりである「草莽神職の会」で、中心人物は愛知・清洲山王宮日吉神社の三輪隆裕宮司。同会は

「検察庁が受理次第、記者会見を開き、詳細を正式発表する」という。

「検察庁が受理次第、記者会見を開き、詳細を正式発表する」という。告発状には、「被告発人（田中総長）の次の告発事実記載の行為は、刑法第247条（背任罪）に該当すると思料するので、捜査の上、嚴重に処罰されたく、ここに告発する」と書かれている。神社本庁の基本財産であった職員用宿舍「百合丘職舎」（神奈川県川崎市）を、財務規定に定められた競争入札でなく、随意契約により、田中総長

## 告発の趣旨

告発事実記載の行為は、刑法第247条（背任罪）に該当する。捜査の上、嚴重に処罰されたく、ここに告発する。

## 告発事実

1. 被告発人（田中総長）は、神社本庁の代表役員として、同法人の事務全般を管理し、同法人の業務および事業の適切な運営を図り、同法人の財産を適切に保護管理するべきものであるが、  
2. 同法人の財務規程によれば、同法人の基本財産を構成する不動産を売却する売買契約の締結にあたっては、競争入札により当該契約の目的に従い、最高価格による入札者と締結しなければならないと定められ、やむを得ない理由がある場合や運営上特に必要がある場合であっても、3人以上の競争入札に付さなければならないと定められており、競争入札に付さず、随意契約で入札に付することは許されていない。

神社本庁に告発状に対する見解を聞いてみたが、返答はなかった。

神社本庁の田中総長派幹部とデ社との間には、「百合丘職舎」の以前にも、不自然な取引があった。

神社本庁とデ社の最初の不動産取引は二〇〇〇年。神社本庁が、関連団体の国民精神研修財団（現・日本文化興隆財団）の全国神社会館を國學院大学に売却し、その売却益で、渋谷区に七階建ての中古ペンシルビルを購入して同財団の事務所移転を計画した。

移転計画の神社本庁側の担当者は、小野崇之財務部長兼国民精神研修財団事務局長（大分・宇佐神宮宮司）、茂木貞純総務部長（埼玉・古宮神社宮司）、打田文博渉外部長の三名。この不動産取引でも異例なことが行なわれていた。通常は、不動産業者が仲介してビルの所有者から神社本庁が買い取るところ、デ社がビルを買い取ってから、神社本庁に売却する手続きが行なわれた。前年の一九九九年十一月の部長会で、

小野氏が、三、四億円でビルを取得すると報告。同月の常務理事会では、打田氏が「意思決定を早くするように」と発言している。同年十二月の役員会でも、小野氏が「時間の問題もあるから意思決定を早くした方が良い」と迅速に対応することを求めたという。

一方、デ社は、神社本庁と國學院大学との間で直接取引された全国神社会館の売却に対しても仲介手数料を請求。小野・茂木・打田氏の決裁により、「仲介手数料支払い契約書」が取り交わされている。

ペンシルビルの購入にあたり、デ社は、神社本庁に対して買取り保証契約も求めてきた。国民精神研修財団がビルを購入しなかった場合は、神社本庁が四億四千万円でデ社からビルを買い取るというものだ。これも小野・茂木・打田氏が段取りし、当時の工藤伊豆総長が、デ社が用意した「買取保証書」に署名・捺印してデ社に提出した。ところが、デ社はビル買取りに必要な

な資金を自前で用意できなかったらしく、小野氏らが協議して、神社本庁からデ社に数千万円の短期貸付融資を行なうことになったという。

これについて、貸付起案書の作成を命じられた人物は、「反対したが、小野財政部長の指示により、起案書の作成をさせられた」と述べている。

## 取引の鍵となる人物

この経緯を見ると、デ社が確実に儲かる取引だったことがわかる。なぜ、デ社がこれほどまでに神社本庁に食い込めたのか。その理由を説明できる人間は、反田中派神職の中にはいない。

おそらく、本当の理由を知るのは、田中総長や打田神政連会長らの、ごく一部の幹部だけだろうが、彼らはメディアの取材に応じようとはしないのだ。ちなみにデ社社長の高橋氏は、その経歴を見る限り、神道界や神職と関係があるようには思われない。

高橋氏と神社本庁の親密な関係の鍵と思われる人物が、神社本庁の外郭団体「日本文化振興財団」の理事だった福田富昭氏だ。高橋氏にとっては日本大学レスリング部の先輩であり、JOC名誉委員等を務めている。

元レスリング選手の福田氏は、引退後に日本レスリング協会の役員を務め、一九八七年に全日本女子レスリング連盟を発足させ、理事長に就任。「女子レスリングの父」と呼ばれた。JOC副会長、国際レスリング連盟副会長、文部科学省五輪対策チーム実行委員長等の役職にも就いている。

また、「美しい日本の憲法をつくる国民の会」代表発起人になるなど、改憲運動にも深く関わってきた。そして、扶桑社が発行する季刊雑誌「皇室Our Imperial Family」を全国各地の神社に直販売してきた「日本メディア・ミックス」の創業者だ。

さらに、「ユニマット」（現・ジャパニビレッジ）代表取締役社長、「フェ

森友・加計事件を見ればわかるように、疑惑としても杜撰なもので、公文書が改ざんされて自殺者が出て、政治家は誰も責任をとらなくてもいい、という「夢の時代」が続いている。安倍政権では、政権を揺るがすような疑惑でも、有耶無耶にされてきた。

しかし、夢も、いつかは醒める。昨年十二月には秋元司衆院議員が逮捕され、六月には河井克行前法相と妻の案里参院議員が逮捕されるなど、明らかに風向きが変わろうとしている。夢を見続けたい安倍政権は、「官邸の守護神」だった黒川弘務氏の定年延長を閣議決定し、検事総長に就けようとして世間から厳しい批判を浴びた。

野党が弱く、政権交代のない今だからこそ、検察庁は徹底した捜査が可能ならずだが、検察庁の中には、いまだに政府と馴れ合おうとする勢力がある。検察としても、政治家の不正に厳しく対処する以上は、自らも厳しく律せられなくてはならない。しかし検事の中

ニックスビジネス」元代表取締役、「ユー・エイチ・アイシステムズ」元代表取締役「五洋インテックス」元代表取締役会長など、実業家としても知られ、量販店の「ドンキホーテホールディングス」（現パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス）の社外取締役にも就任している。

一方で、福田氏は噂や怪文書の中では、暴力団や韓国系カルト教団との関係を取り沙汰されている。「週刊文春」が、山口組幹部の故・大石誉夫氏との「黒い文際」を報道した際、福田氏は取材に「記憶にありません」を繰り返していた。また、五輪四連覇の伊調馨選手と彼女のコーチに対するパワハラ事件でも、関与が報道された。

デ社の高橋氏が、利益供与と見られる優遇措置を受けられたのは、福田氏が存在があったことは間違いない。今回の刑事告発で、彼らのやってきたことが、白日の下に晒されようとしているのだ。

には、黒川氏のように政治家と馴れ合うことで出世し、上級国民としての特権を享受したい徒輩もいる。彼らが抵抗勢力となっているのだ。

改憲を訴える神社本庁や日本会議は「日本の伝統」を掲げ、国民の愛国心に訴えようとするが、彼らが口にする「伝統尊重」や「愛国」が本心かどうかも疑わしい。神社本庁で過去に前例のない四期目の総長職を務める田中総長だが、その長期政権で行なわれたのは、歴史と伝統のある有名神社の社家を追放し、自分の側近を宮司にする恣意的なオトモダチ人事だった。

本誌でも再三採り上げている、南北朝時代から続く宇佐八幡宮の到津克子権宮司の解雇事件はその典型だろう。現宮司の小野氏は前述の不動産取引を主導した人物だが、着任早々に大分県神社庁の宇佐支部と対立。宇佐神宮の境内に有料駐車場を計画して地元商店街とトラブルを起こし、地元民が市民団体「宇佐神宮を守る会」を結成し、

#### 検察の捜査に期待できるか？

神社本庁とデ社との不動産取引は証拠が揃っており、誰が見ても不可解なものだ。だが、検察庁は、告発の受理に慎重になっているようだが、受理すれば起訴する十分な根拠があり、たとえ不起訴にしても、検察審査委員会に不服申立されることが明白だ。

もし田中総長が起訴される事態になれば、背任罪で終わらず、神社本庁や神政連による政治家の選挙支援等についても、捜査線上に浮かび上がってくる可能性が高い。

検察庁は二〇〇二年、三井環元大阪高検公安部長の裏金告発を強引に封印した結果、自民党の政治家に大きな借りを作った。その結果、権力の不正を監視する特捜検察が弱体化し、政権与党の政治家にとって、野党議員から国会で追及されたとしても、検察の捜査を怖がる必要はなくなった。

宮司罷免要求をする騒ぎとなった。

小野氏の実家は、大分県の小さな神社だが、父親に継承を許されず、神社本庁に就職し、田中総長の側近になったという。田中総長自身も神職になる気はなかったらしく、近畿大学を卒業している（神職を目指すなら、神職資格取得課程を有する大学、國學院大學か皇學館大学を受験するのが一般的）。

保守系政治家に大きな影響力を持つ日本会議には、モラロジーやキリストの幕屋など、伝統宗教以外の多くの新宗教が参加している。一九七〇年代には、日本の右翼運動や右派政治家と、韓国の軍事政権は蜜月関係だった。この頃、韓国系カルトの旧統一教会（世界基督教統一神霊協会）が保守運動に食い込んだ。彼らは、関係の深い立正佼成会等の新宗教の名義で右翼運動に浸透したのだ。

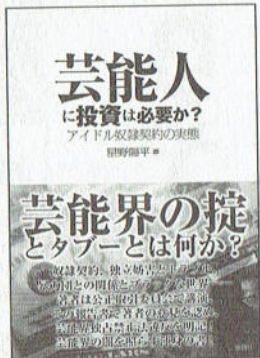
旧統一教会初代会長の久保木修己氏の遺稿集のタイトル『美しい国日本の使命』は、安倍晋三首相の『美しい

# 芸能人に投資は必要か？ アイドル奴隷契約の実態

星野陽平 - 著 A5判 / 200ページ / 並製 / カバー装 定価：本体 1350円+税

## 芸能界の掟とタブーとは何か？

奴隷契約、独立妨害とトラブル、暴力団との関係とブラックな世界——  
著者は公正取引委員会で講演、その報告書で著者の意見を認め、芸能界独占禁止法違反を明記！  
芸能界の闇を照らす渾身の書！



<2014年8月に入ってから複数の週刊誌がこぞって安室奈美恵の独立騒動を報じている。(中略)週刊誌の報道によれば、安室は同年5月、ライジング幹部らの前で「独立したい」と切り出し、後日、「提案書」を持参して、契約条件の変更を迫ったとされる。提案をライジング側が拒絶すると、安室は「これでは奴隷契約よ!」と言い放ったという。> (本文より)



## 【増補新版】芸能人はなぜ干されるのか？ 芸能界独占禁止法違反

星野陽平 - 著 A5判 / 352ページ / 並製 / カバー装 定価：本体 1850円+税

商業出版の限界を超えた問題作！  
全マスコミが黙殺したもの、「ここまで書いていいのか？」とネットで話題騒然となった「芸能人はなぜ干されるのか？」が増補新版として再登場。



「SMAP分裂騒動」「ミス・インターナショナル吉松育美電撃謝罪」「能年玲奈(現のん)芸能界追放劇」「現在進行形の芸能界殺人計画」の真相を暴く補章「それからの芸能界」を新たに追加してますます「芸能界の闇」をあぶり出す！

【目次】  
プロローグ 北野誠事件  
第1章 干された芸能人  
第2章 芸能事務所とは何か？  
第3章 抵抗の歴史  
第4章 ナベプロ帝国の落日  
第5章 ジャニー喜多川の少年所  
有欲求  
第6章 「免許のないテレビ局」  
吉本興業

第7章 バーニングプロダクション  
と暴力  
第8章 韓国、ハリウッド、声優業界第9章  
芸能と差別  
補章 それからの芸能界  
付録 カリフォルニア州労働法・  
タレント斡旋  
業規制条項



図書出版 るくさいしゃ  
**鹿嶋社**

【本社/関西編集室】〒663-8178 兵庫県西宮市甲子園八番町 2-1-301  
TEL 0798(49)5302 FAX 0798(49)5309  
【東京編集室/営業部】〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3丁目 3-3-701  
TEL 03(3238)7530 FAX 03(6231)5566

◆書店にない場合は、ハガキ、ファックス、メールなどで直接弊社にご注文ください。  
送料サービス、代金後払いにてお届けいたします。  
メールでの申込み sales@rokusaisha.com ●郵便振替=01100-9-48334

### 神社本庁内部の迷走

神社本庁は、数年前に本庁職員や神職の懲戒規定の厳罰化を行なったが、懲戒対象を規定する「その他、神職としての資質に欠ける行為」の項目は、施行以前に起きた事案にも適用される。今年三月に神社本庁の小間澤澤渉外部長兼秘書部長と本庁職員の間で不倫報道があった。小間澤氏は日本会議常任理事や、神道政治連盟の事務局長も務める田中総長派の幹部だ。

ところが、小間澤氏は現在も神社本庁に勤務している。女性職員と一緒に深夜の歌舞伎町のラブホテルから出てきたところを写真週刊誌に報道された小間澤氏は、田中総長に対し、女性職員が元上司から受けていたストーカー被害の相談を受けたのであり、不倫ではないと主張したという。

小間澤氏の言い分を信じた田中総長が、女性の元上司を刑事告訴すると鷹司尚武総理や一部理事に対して説明したことが、ダイヤモンド・オンラインに報道されている。五月に女性職員の元上司の岩手県神社庁長の訃報が報じられたが、関係者間で自殺説が流布されている。

七月十九日付の「敬天新聞」が、神政連の打田会長と親しい神職が、藤原鎌足を祭神とする談山神社(奈良・別表神社)の宮司職に就こうとしている、と非難する投書を掲載した。同神社の神職に話を聞くと、この神社では、竹下登元首相への脅迫事件への関与が指摘された右翼活動家の息子が神職になり、神社の金を好き勝手に使っていたので、自分が辞めさせたのだという。

国へ」や、前出の福田氏が発起人になった改憲運動「美しい日本の憲法をつくる国民の会」にも使われたフレーズだが、統一教会の「美しい日本」の本」とは、「エバ国家」である日本が、妻として夫である「アダム国家」の韓国に尽くす国になるという意味だ。

この右翼活動家は、塩川正十郎元財務相や平沼赳夫元経産相と親しく、野田聖子議員のパトロンとも言われる。〇八年にも入院中の岐阜市議の病室で看護師に暴言を吐いて、岐阜県警組織犯罪対策課に逮捕されている。

殺人事件が起きた富岡八幡宮(東京都江東区)もそうだが、神社本庁の政治運動への参加は、カルト教団や、暴力団・右翼活動家が、静謐を尊ぶ神社経営に介入するきっかけとなった。その挙句、昨年九月に建勲神社(京都)、今年六月に金刀比羅宮(香川)など、有名神社の本庁離脱が続いている。

田中総長を告発した神職たちは、これ以上、恣意的な運営や人事がまかり通れば、神社本庁自体が解体してしまふという危機感から、正常化を願って告発した、と話している。

三川和成(みづかわかずなり)  
フリーライター。事件取材を中心に、幅広く活動中。